

気候危機への取り組み

—パタゴニアが考える企業の責任—

Tackling the Climate Crisis

Patagonia's Corporate Responsibility

パタゴニア日本支社

Patagonia, Inc.

●アウトドアフィールドと気候変動

パタゴニアはアウトドアスポーツに着用するウェアやギアを提供する会社です。近年、気候変動の影響を暮らしの中で顕著に感じるようになってきていますが、私たちパタゴニアとそのカスタマーの大切なフィールドである海、山、川などにおいても、特にその変化を感じる事が多いです。冬の山では雪の降り方が極端に変化したり、海では水の温度が年々高くなってきたり、山では年々の気温の上昇とともに植生が変わってきていることを感じます。

人間が、地球が自然の力で回復するスピードを超えて自然を消費することによって、生態系のバランスが崩れ、私たちの貴重な資源である水、空気、土壌の適切な循環が損なわれていることの結果が、気候変動という形で表れてきています。今、人間の活動の影響によって気候変動が起きていることが明らかになっていることを踏まえ、私たち人間は、今一度、自然が与えてくれる恵みに感謝して、地球の上に暮らす生き物の一員として、私たちがとるべき行動を考えていく必要があります。そして、気候変動への影響の大きな部分を占める産業界やビジネス主体が、その悪影響を減らすと同時に、生態系の適切なバランスや自然の循環を回復させていく役割を担う時が来ています。

●ビジネスとしての循環性を高める

アパレル業界においても気候変動に与える影響は大きく、特にこの数十年は大量にモノが作られては消費され、その多くが廃棄されるというリニア（直線型）な産業モデルによって環境への悪影響を与えています。パタゴニアは「私たちは故郷である地球を救うためにビジネスを営む」というミッションステートメントに基づき、ビジネスとしての循環性を高めることを目指しています。パタゴニア日本支社の目指すサーキュラリティ戦略は、「製品の寿命を最大限に伸ばす。そして、製品の寿命の終わりで責任を取る」というシンプルなものです。

製品の製造から流通、使用、そしてその役割を終えるまでの製品ライフサイクルの中では、製造段階における環境への負荷が最も大きく、全体の9割を占めていると考えられています。環境への影響を抑えるために最も効果的なことは、不必要に新しい製品を生み出さないこと、そして生み出された製品を長く大切に使い続けることです。

●製品としての寿命を延ばす（リペアとリユース）

製品の寿命を延ばすために、まず優先されるのはリペアをして長く大切に着ること、そして、着なくなったものがあれば、手渡してリユースすることです。私たちパタゴニアは飽きのこないシンプルなデザインで、長持ち



して耐久性があり、修理のしやすい製品を最高の製品として位置付けています。パタゴニアのリペアサービスでは、年間2万件の修理を行い、製品として長く着続けることの手助けをしています。岩場で破いてしまったクライミングパンツを何度も修理しながらフィールドでの相棒として使い続けること、海上がりに体を温めてくれるフリースのボタンが取れてしまったら付け替えて長く着続けることをお手伝いします。友人から受け継いだ子供のキッズジャケットに穴が空いてしまったら、お気に入りの動物を形取ったりパッチで修理をしてオリジナルの一着に。そして体が大きくなって着られなくなったら、お下がりタグに名前を記して次の世代に受け継いでいくことを推奨しています。

リユースの領域においてビジネスの観点から取り組むべきこととして、新しい製品を生み出すことによるのみ事業を成り立たせる一次流通に依存したビジネスモデルを変革し、すでに作られて眠っている中古の製品を再び循環させる二次流通をビジネスの軸に加えることによって、ビジネスのあり方そのものを直線型から循環型にシフトしていくことが必要です。それは新しい製品を生み出す企業としての責任を果たすことと同時に、環境への負荷を抑えた形でのビジネスのあり方で事業を存続させていくことも可能にします。この二次流通モデルは、パタゴニア米国本社ではすでに取り組みが始まっており、日本国内においても進めていく予定です。直線型に依存した社会構造を変革し、循環型社会にパラダイムシフトすることに繋がると考えています。

●製品の寿命の終わりで責任を取る（リサイクル）

もし製品として使い続けることができなくなったら、素材として再利用するアップサイクルの可能性を探ります。フライフィッシングで川に入る際に着用するウェーダー（胴長）が、ウェーダーとしての機能を失ってしまったら、バッグや小物入れに作り変えて、新たに息を吹き込みます。リサイクルは最後の手段です。すべての選択肢が尽きた時に、できるだけ環境負荷の低い方法で素材に戻して循環させる道を模索します。

●コミュニティを広げてカルチャーを育む

修理をして長く着続けること、必要な人に手渡してリユースすること、それらの製品の寿命を延ばすためのひとつひとつの選択や行動は、気候変動をはじめとした環境課題の解決のために意図して私たちひとりひとりが日々の生活の中で行うことができるアクティビズムともいえます。そして、それらは同時に生活や暮らしの中で循環を楽しむことでの心の豊かさをもたらしてくれるものでもあります。私たちパタゴニアはその価値への共感を育み、ともに地球を救うための活動をコミュニティに広げていくことを目指します。

パタゴニアは、Worn Wear プログラムによって、直す人から使う人へ、手放す人から受け取る人へストーリーを繋ぎ、「新品よりもずっといい」というコンセプトを社会に伝えていく活動に取り組んでいます。

● Worn Wear College Tour 「責任ある消費」を考える旅

パタゴニアは、人とモノとの関係を変えるという使命のため、2013年に「Worn Wear(着ることについてのストーリー)」というプログラムを開始しました。その狙いは、パタゴニアのウェアをより長持ちさせることで、着ることについてのストーリーを祝い、地球への負担を緩和することです。

2019年5月31日(金)、「壊れたら、修理しよう」を合言葉に、聖心女子大学を皮切りに「Worn Wear College Tour」がスタートしました。ツアーでは、ウェアの修理やセルフリペアの方法を共有し、これからの未来を担う学生の皆さんと「責任ある消費」とは何かをともに考えるため、全国11大学を回るツアーに出かけました。服の生産過程でたくさん使われる水やエネルギーを無駄にしないためにも、服は安易に買い替えず、手持ちの服をできるだけ長く着ようと呼びかける Worn Wear も、基本精神はこれらの流れを組むプログラムです。創業者のイヴォン・シュイナードが「最高のジャケットは既に作られたものである」と言ったように、その背景には「It's Better than New. (新品よりもずっといい)」という価値観があります。



リペアセンターでは自社製品しか扱ってこなかったの
で、ツアーはパタゴニアのリペアサービスや、服を長く
着る大切さを不特定多数の人に広く知らせる良い機会に
なっています。なかでも、大学を回るツアーの良さは、
会話が始められること。パタゴニアの取り組みを深く話
せる場となっていました。私たちのように環境問題の解
決を目的にビジネスに取り組む企業がまだまだ少ないな
かで、パタゴニアという会社で働くことについても学生
たちと話せる貴重な機会になりました。

●だれの未来？それは、私たちの未来

皆さんの将来にある地球を住みやすい環境にし、ひと
りひとりの大切なものや人を大切にしながら生きること
のできる未来像——新たな価値を生み出し、分断された
環境や人間がつながりを取り戻す社会——を描いてみて
ください。いま起きている時代の変化の本質に目をやり、
どこから取り組みたいか、ほんやり見えていた世界から
皆さんにとっての新たな問いを見つけて、創造性をもつ
た社会の担い手や社会をつくる仲間として行動すること
をはじめたら、見える景色が変わってくるかもしれません。
若い世代の皆さんの眼差しでこの世界を見てほしい
と思います。皆さんが生きることができる安全な気候と
未来のため、本スクールで学び、それぞれの学校や地域
で行動してみませんか。

2020年パタゴニア日本支社は、若い皆さんとともに
問いを投げかけることから始めたいと考え、気候変動
をはじめ環境や地域のテーマに関心をもちながらも、行
動してみたいけれど起こせていない全国の高校生・大学
生・社会人など15歳～24歳を対象とする「クライメー
ト・アクティビズム・スクール～気候のための行動を学
ぶ」を開催しました。100名の募集に500名の応募があり、
最終的に140名の皆さんと学びをともにしました。これ
までの経済や社会システムによって生まれている気候変
動や生態系の喪失をはじめとする環境問題という現実
に目を向けながらも、未来を思い描き、それぞれのテーマ
におけるステークホルダーやコミュニティと協働し、社
会の担い手として創造性をもって実践にうつす、行動す
る。本プログラムは、パタゴニアの長年つづく、環境保

護活動を成功に導くための「草の根活動家のためのツ
ール会議」の一部でもあります。開催前には全国各地域で
すでに動き出した若者によるはじめての気候変動問題に
取り組むために集う場がつけられることになりました。
「若者気候サミット」として渋谷のビルの一角で実施さ
れたこの場にプログラム構成や20代のスタッフの参加
も含めて協力してきました。この時も、これまでを牽引
してきている科学者や、ビジネス、NGO・NPO等各分
野の大人世代も参加し自らの知見や経験を共有していま
す。これまでの活動も含めて、動き出した人たちが孤立
せずに、互いにより距離感と連鎖を生み出しています。

●「今後、数年間が正念場になる。」

国連気候変動枠組条約のもとで、政策上の議論に科
学的な根拠を与えるという大きな役割を果たしてきた
IPCC（気候変動に関する政府間パネル）、2022年4月に第
6次評価報告書・第三作業部会（気候変動の緩和）の
報告書が公表されました。「人間活動による気候変動が、
より頻繁で強烈な現象を起こし、幅広く自然と人間に
負の影響を及ぼしている」と記されましたが、2010 -
2019年の全世界の年間平均温室効果ガス排出量は人類
史上最も高い水準となり、目標とされる1.5℃に抑制す
る経路の実現のためには、脱炭素技術の大規模な普及だ
けでなく、社会の変容をも含む、これまでに類をみない
システムの移行が求められます。昨年8月の第一作業部
会（自然科学的根拠）では、「人間の影響が大気、海洋
及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がない。」
と明記され、今年2月の第二作業部会（影響・適応・脆
弱性）の報告に引き続き、早急に対処が必要であること
が、あらためて示された形になりました。一方で、2030
年までに排出量を少なくとも半減させる解決策、選択肢
はすでに存在することも述べられています。

パタゴニアは2018年の年末、創業者であるイヴォン・
シュイナードからミッションステートメントを「私たち
は、地球を救うためにビジネスを営む。」に更新するこ
とが伝えられました。現在の公式ウェブサイトには、気
候危機は私たちのビジネス課題ともあります。気候危機
は人類の存続を脅かす脅威であり、パタゴニアのビジネ



スのすべての部分が関係しています。私たちは製品を製造する方法を根本的に変えることによって二酸化炭素の排出を劇的に削減する必要があります。また、地域社会が化石燃料から脱却し、元来の気候の解決策である自然を守る活動を手助けするための活動にさらに力をいれなければなりません。そして、政府と産業界にまさに体系的な変革を求めていくことも必要です。私たちのビジネスのやり方を変えることは極めて重要な手段ですが、気候危機はそれ以上の要求をしてきます。化石燃料をつかわず、自然を保護するためのコミュニティ主導の取り組みを支援、協働していきます。ビジネスには果たさねばならない役割がありますが、それはひとつの手段にすぎません。健全な地球、自然環境を基盤とする公平で公正な未来をつくるために私たちのもつすべてを活用していきたいと考えているのです。

●自らのビジネスを変えるだけでは不十分

パタゴニア日本支社では自社での削減の実践とともに、国内で一社では取り組めないシステムの移行への働きかけを日本気候リーダーズ・パートナーシップ(JCLP)の一員として、日本の気候政策、NDCやエネルギー基本計画改定等について政策提言という形で行ってきました。企業は脱炭素社会に後ろ向きであるという政治家、省庁や政府の認識を大きく刷新させています。2022年4月時点、JCLPは正会員35社、賛助会員210社となり「気候危機の回避へ、速やかな脱炭素社会への移行を実現し、1.5℃目標達成を目指す」というパーパスのもと、危機感を共有する先進企業が主体となってビジネス視点で活動を続けています。

また、2019年の参議院議員通常選挙の投票開票日、日本支社は全直営店を閉店しました。私たちは、従業員全員が家族や友人などの身近な人と、日本の政治、選挙、そして私たちの地球の未来について話すきっかけと時間をもつこと、投票に行くことが大切だと考えたからです。政治を語ることは、私たちの将来や夢、生きる中で自分に大切なことを語ることと同じです。そして、昨年の第49回衆議院議員総選挙では、私たちの大切なパートナーであるお取引先企業やアウトドアスポーツコミュニティとこの想いを共有し、国内114社もの皆さまとともに

メッセージを投げかけ、社内での対話や従業員が投票に行きやすくなる機会を提供するなど行動しています。

●気候の解決策として自然を保護する

自然は、炭素排出削減、炭素貯蔵、緩和、適応という形で、人間と生物多様性の両方に大きな利益を社会にもたらすことができます。私たちが壊滅的な温暖化を減速させるために2030年までに隔離せねばならない二酸化炭素のうち、自然はその3分の1を削減できることを科学的に証明しています。しかし、採掘活動や工業化によって、気候の悪化から私たちを救ってくれるはずの生態系が破壊され、自然は脅威にさらされ続けています。さらに悪いことに、自然は気候変動に対してますます脆弱になり、自然がもたらす気候変動への恩恵は変化しやすくなっています。

地球の生態系を健全に保つことは、人間と社会や経済にとっても不可欠です。予測される人間と生態系への損失と被害を完全になくすことはできませんが、大幅に減らすことができます。損失と被害はより脆弱な国、地域、コミュニティや人々に影響を及ぼします。私たちの唯一の故郷である地球に住みつづけることができるかどうか歴史的な分岐点であり、自然に根差した公平で公正な新たな未来をつくる出発点です。

脱炭素社会といわれる未来像にも、新しいエネルギー、食料、交通、土地、産業、建物、運輸および都市において、広範囲におよぶシステムの移行に着手することなどが含まれています。そのシステムの力もあり、地球上の誰も取り残さないという視点を持ち、移行にともなう出来事にもポジティブな新しい提案をしていく創造性と想像性。その希望は若者だけにとどまらず、市民の皆さんの手の中にあります。私たちも企業として、市民として、多面的な自然に根差した気候の解決策を追求し、コミュニティと生物多様性に回復力と適応力を与え、すでに到来している気候変動の影響を私たちの取り組みやコミュニティの再生を通じて、プラスのベネフィット、経済を生み出し、市民が主役の社会、生態系と人と地域社会が繁栄することを目指していきます。

